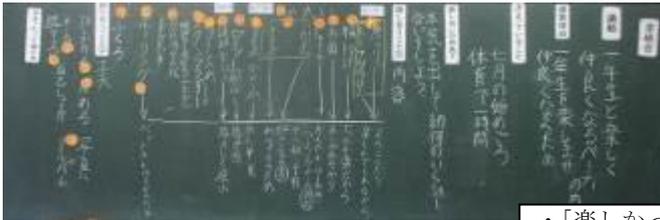


令和4年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	定宗 由里	生徒指導主事	吉岡 欣哉
取組事例名	『庄原小学校 ほっこりプロジェクト』				
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性」	1	「自己理解・自らの自信」	2
取組のねらい					
○高学年として、自分たちにできることを考え実践することで、下学年の児童が上級生とのつながりを感じ、学校に来ることが楽しいと思えるようにする。 ○6年生に、最高学年としての自覚をもたせるとともに自己肯定感を感じさせる。					
取組の具体的内容				取組の創意工夫 【キーワード 本気の達成感】	
○年度当初、学級活動(1)において、学級会オリエンテーションで話合いの流れを確認した。6年生として自分たちにできることを考え、実行した。				【評価】	
活動事例(1) 1年生を楽しませ、仲良くする会				・単元の活動(計画委員会の事前の準備の話合い、本時の話合い、話し合ったことを実行するための事後の活動)のそれぞれの場面で、自己調整している姿を意識させ評価した。	
・1年生と仲良くなり、楽しく学校に通ってもらうために何かできることはないか考え、会を行った。				・単元後の振り返りでは、「自分たちの学校は、自分たちで楽しくできる」「みんなの役に立つ喜びを知る」を実感できるように評価を行った。	
【話合い】				【話合いのポイント】	
				・話合いの前に、よりよい話合いにするために必要なポイントを確認して意識付け、話合い後に振り返りを行った。	
【仲良くする会】				【全員参加するための工夫】	
				・目的に合わせて、児童がやりたいと思った活動ができるように支援を行った。	
<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しかった。」「明日もやりたい。」と言ってくれてうれしかったです。あまりかわりのない1年生に喜んでもらえて本当に心の底から楽しめました。 ・自分のチームも他のチームもたくさん準備して、「1年生を喜ばせたい!」という気持ちがいっぱいになりました。 				・全学級と関わるための時間を設定するために、他学級の担任と連携を行った。	
活動事例(2) 2学期がんばろうメッセージ					
「2学期も残りあと少しになった。何も行動しなくても2学期は終わります。でも、みんなのために何かすることで、したほうもされたほうも喜びが生まれると思うので全校のために何かできることはないか考えよう。」という友達からの提案を受け、各クラスを回って、「残りの2学期をがんばろう!」というメッセージを送ったり、出し物をしたりした。					
					
メッセージ				活動	
取組の成果と課題					
○5月と10月に実施した「学校楽しいーと」(鹿児島県総合教育センター)での、自己肯定感における肯定的評価が11.88(5月)から12.65(10月)と0.77ポイント向上した。また、同アンケートにおいて、心身の状態においても、9.72(5月)から11.48(10月)と1.76ポイント向上した。					
●6年生を中心とした取組だけでなく、他学年も巻き込んだ取組となるように、児童会主体の活動を児童自ら計画させていく。					